様式第１号（第１０条関係）

２０２４年度業務実績報告書

提出日　2025 年　1 月　15 日

１．職名・氏名　特命教授　村上　茂

２．学位　学位　薬学　、専門分野　生化学、授与機関　東京薬科大学、授与年　1986 年

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
臨床薬理学（2 単位）2 年生

② 内容・ねらい
さまざまな薬物が生体で働く作用を分子レベルで理解する。また、薬物が体内に吸収された後の体内動態についても理解する。さらに、医療現場での業務に関わる、薬物の副作用や健康被害、病院での薬剤業務など実務的な内容についても学習する。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
講義では製薬会社での医薬品開発の経験も盛り込みながら、薬物の作用や作用メカニズムについて講義を行っている。また、教科書以外にも薬理に関する最新情報も織り交ぜながら、興味を持って聴講してもらえる様、工夫している。毎回講義の最初に前回行った講義内容について小テストを実施し、前回の内容を思い出し復習できるようにしている。

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
技術者倫理（1 単位）3 年生（生物資源学部・生物資源学科）

② 内容・ねらい
科学技術に関する業務に携わる者に求められる倫理について学習する。近年、大手企業における倫理問題、大学関係者による利益相反やデータ捏造など、技術者が関わる業務における不祥事が増加している。授業では、実際に社会問題となった事例を取り上げ、背景や経緯を説明した上で、各人が当事者となった場合の対応を考える。講義を聞くだけの受け身の授業ではなく、課題に対してどう考え、どうのように行動すべきかを判断する授業内容としている。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
最近は技術者倫理以前に、社会人としての倫理が欠如して発生する不祥事が増えている。講義では、まず社会人として必要な基本的倫理について、さまざまなコンプライアインス違反を題材に事例研究を行う。技術者倫理としては、データ捏造、内部告発、品質管理と製造物責任法、知的財産と職務発明など、最近問題となった事例を取り上げ、技術者として責任を持って対応できる訓練を行っている。授業では、6 人程度のグループに分かれ、与えられた課題をグループ内で議論し、意見をまとめて発表する機会を多く提供している。

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
分子機能科学専攻演習Ⅰ（2 単位）生物資源学専攻大学院博士過程前期
（生物資源学部の大学院生の指導も行ったため）

② 内容・ねらい
大学院での研究テーマと関連した英文の文献紹介と研究の進捗状況の報告を行い、研究の内容の理解を深めるとともに、関連研究に関する情報を習得する。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
大学院生が自分の研究に関連した文献を読んで内容を理解し、第三者に対してわかりやすく説明する訓練を行う。学会での発表や最終的な修論発表を見据え、読んだ文献の内容や自分の行った実験内容を、いかにしてわかりやすく伝えることができるかをトレーニング場としても活用した。

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
分子機能科学専攻実験Ⅰ（4 単位）生物資源学専攻大学院博士過程前期
（生物資源学部の大学院生の指導も行ったため）

② 内容・ねらい
大学院博士課程前期の研究者として、十分な考え方と基礎技術を身につけることを目的とする。生活習慣病予防に効果のある食品や食成分の機能性を検証するとともに、成果を活用した機能性食品の創製などの応用研究を展開する。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
実験を進めるに当たり必要な情報を文献等から収集し、得られた結果をまとめ論文作成や発表するための技術も身につけられるように指導を行った。

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
卒業研究（看護学科）（3 単位）　4 年生

② 内容・ねらい
基盤看護学分野の健康科学領域で、主に実験動物とヒトを対象として、福井県産の農林水産物や生薬などの腸内細菌を介した肥満や糖尿病の予防効果を検討する。これらの実験を通して、生活習慣病予防や健康長寿実現における食の重要性を理解する。また、関連文献を読み、得られた実験結果を卒業論文としてまとめるという科学的研究過程を経験し、修得する。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
卒論生には看護学科の卒業研究として、ヒト試験を含め福井県産食素材の機能性評価を課題として与えた。また研究と並行し、月に 1 回程度関連する領域の論文購読を課し、研究の周辺状況の理解や科学的論文の執筆や発表技術が身につくよう工夫した。

４．研究業績

(1)研究業績の公表

① 著書

【0 編】

② 学術論文（査読あり）

1. Ito T, Murakami S. Taurine deficiency associated with dilated cardiomyopathy and aging. J Pharmacol Sci. 154, 175-181 (2024).
2. 前川栄治，苧玉真生，坪井耀大，Hamida Khano，坪谷香菜絵，Joanna Bajerska，村上茂、伊藤崇志. ナツメ果実搾りかすの健康機能性及び食味性向上に資する菓子素材としての有用性，福井県立大学論集 60, 117-124 (2024).
3. Bajerska J, Mori M, Toshiya Toda T, Mizuno N, Aleksandra Skoczek-Rubińska A, Bykowska-Derda A, Noskiewicz J, Łagowska K, Murakami S, Yamori Y. Equol-producing ability of Polish postmenopausal women and the dietary determinants of S-(-) equol formation. Acta Sci Pol Technol Aliment. 23, 77-86 (2024).
4. Łagowska K, Jurgoński A, Mori M, Yamori Y, Murakami S, Ito T, Toda T, Pieczyńska-Zając JM, Bajerska J. Effects of dietary seaweed on obesity related metabolic status: A systematic review and meta-analysis of randomized controlled trials. Nutr Rev. May 15 (2024)

【4 本】

③ その他論文（査読なし）

【0 本】

④ 学会発表等

1. 村上茂，伊藤崇志．加齢とタウリン，第 10 回国際タウリン研究会日本部会学術集会，令和 6 年 3 月．
2. 加登谷知世，山本侑輝，宮﨑照雄，松﨑千秋，古澤之裕，伊藤崇志，有馬寧，福田敦夫，村上茂．腸内細菌と胆汁酸を介してタウリンの代謝性疾患の制御，第 10 回国際タウリン研究会日本部会学術集会，令和 6 年 3 月．
3. 村上茂．ナツメの腸内細菌叢に対する作用の検討，第 9 回日本なつめ研究会，令和 6 年 9 月．
4. 村上茂．アカモクの健康増進効果の解明と商品化の取り組み（招待講演），久留米大学，令和 6 年 10 月．
5. 村上茂．福井県産業労働部主催 県産食材活用セミナー 福井県産農林水産物の健康増進効果の解明と商品化の取り組み～地産地消による地域活性化をめざして～（招待講演），福井市ふくまちブロック 6F 越乃バレー，令和 6 年 10 月．
6. 村田良洋，林知絵，金子貴美香，伊藤崇志，村上茂，日弁隆雄． Lactiplantibacillus plantarum FHC3 が高脂肪食摂取マウスに与える体脂肪蓄積および行動 への影響，日本乳酸菌学会 2024 年度大会　令和 6 年 7 月

【6 件】

⑤ その他の公表実績

テレビ放映

・福井テレビ アカモク丼コンテスト～海の邪魔者が大変身～2024 年 3 月 25 日
・福井テレビ news イット！　アカモクの腸内細菌改善作用 2024 年 6 月 19 日
・福井テレビ CHOICE! 海と日本プロジェクト アカモクの腸内細菌改善作用 2024 年 6 月 26 日
・FBC テレビ「おじゃまっテレ、健康いちばん」アカモクの腸内細菌改善作用 2024 年 7 月 2 日

雑誌

・週刊新潮 2024 年 2 月 22 日号 「タウリンは健康長寿の源」

・日経ヘルス 2024 年春号「新しい２つのアンチエイジング成分（１）タウリン」

新聞記事

・「海藻アカモク腸内環境改善」福井新聞 2024 年 6 月 19 日

・「海藻アカモクで腸内環境改善」県民福井 2024 年 6 月 19 日

プレスリリース・記者発表

・海藻「アカモク」のヒト腸内細菌叢改善作用を解明 2024 年 6 月 18 日

ネット

・YouTube 【ダイエットの新時代】村上教授が明らかにした「アカモク」の健康効果と地域活性化への期待日本財団 海と日本 PROJECT in ふくい 2024 年 9 月 6 日 https://www.youtube.com/watch?v=rmo5nty3EZc

・ヤフーニュース「二日酔い」改善に【海苔】が有効？　疲労感の軽減も」2024 年 12 月 26 日　https://news.yahoo.co.jp/articles/e142823607339fb5c3a3faf2fbee06916f608f23

【11 件】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績

【学外】

科研費 基盤研究 C 腸内細菌を介したタウリンの健康増進効果の解明　455 万円/3 年 2024.4.1 – 2027.3.31

【学内】

(1) 地域連携研究推進支援　90 万円

(2) FAA 学ぶなら福井！応援事業補助金 90 万円

(3)特許等取得

(4)学会活動等

学会での役職など

・国際タウリン研究会日本部会 理事長（2014 年 11 月～現在）

・International Taurine Society 理事（2017 年 5 月～現在）

・日本なつめ研究会 会長（2019 年 1 月～現在）

・NPO 法人世界健康フロンティア研究会　副理事長（2022 年 8 月 1 日～現在）

学会でのコメンテーター、司会活動

・第 10 回国際タウリン研究会日本部会，2024 年 3 月，座長

学会・分科会の開催運営

・第 9 回日本なつめ研究会，2024 年 9 月，代表世話人

５．地域・社会貢献活動

・公開講座：腸内細菌叢の乱れと病気の発症～日々の食事で腸内環境を整え健康長寿をめざそう！～　2024 年 6 月 8 日 Zoom

６．大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
(3)学内行事への参加
(4)その他、自発的活動など